

Wesley Hall News

ウェスレー・ホール・ニュース

December, 2023 No.143

まことの光があった。
その光は世に来て、
すべての人を照らすのである。

ヨハネによる福音書 第1章9節



闇を照らす光を迎えて

大学宗教主任

八木 隆之



スポーツ観戦の好きな人は、国際試合で日本代表が期待していたほど勝ち進むことができず、落胆したことがきつとあることでしょう。聖書の世界で古代イスラエルの人々が経験した落胆も、スケールは大分違いますが本質的にはそれと共通したことでした。彼らは神から特別な約束を受けており、神が彼らを特別な民として選んだことを信じていました。「あなたがたは世界中の祝福の基となる」、「すべての民族があなたがたを通して祝福される」というものです。彼らは、神の選ばれし民としての使命を抱き、世界中に神の祝福をもたらすために存在していたのです。

ところが、時間が経つにつれ、繁栄の時代を経て、イスラエルは衰退の歴史をたどることになります。それは、彼らは神に対する信仰を失い、他の神々を拝むようになったからです。その結果、国は南北に分裂してしまい、北王国イスラエルがアッシリアに滅ぼされ、南王国ユダはバビロンに滅ぼされ、栄光の時代は過去のものとなってしまいます。彼らは、神の計画がどこに行ってしまったのかと失望と落胆にさいなまれることになります。

この失望と落胆の経験がイザヤ書9章が描いているイスラエルの人々の置かれていた状況です。9章1節によると彼らは「闇の中」を歩んでいたと言われますし、「死の影の地」に住んでいたとあります。その直前の箇所にも、どれだけその闇が深かったか、ということが描かれています。8章22節には「地を見渡すと、見よ、苦難と闇 苦悩に満ちた暗

一人のみどりごが私たちのために生まれた。
一人の男の子が私たちに与えられた。

イザヤ書 9章5節

黒、そして追放の暗闇。」とあります。彼らの状況がどれほど深い闇に覆われていたかを想像することができます。

しかし、そのような深い闇の中で一筋の光が現れました。それが有名なメシヤ預言として知られるこの箇所メッセージです。9章1節にあるように、「闇の中を歩んでいた民は大いなる光を見」、彼らの上に「光が輝いた」というのです。その光とは何だったのでしょうか。5節は「一人のみどりごが私たちのために生まれた。一人の男の子が私たちに与えられた」と続きます。ここで「男の子」と訳されている言葉は、英語版の聖書ですと「息子」(a son)と訳されています。つまり、やがて生まれるお方こそが神の御子であることを暗示する言葉なのです。言い換えれば、この将来の男の子の誕生を暗示する言葉が、御子イエス・キリストが暗闇に光をもたらす存在であることを語っているのです。

この預言のことばがイザヤを通して語られてから、現実となるまでに約700年という歳月がかかりました。それでも、先ほどのイザヤの預言は既に実現したかのように記されています。そのみどりごは既に「生まれた」のであり、男の子は既に「与えられた」というのです。これは、神の預言が確実であることを示す表現だと言われています。いくら何世紀にわたる時間の隔たりがあろうとも、神の計画は確実に遂行されるからです。

さて、御子イエス・キリストがお生まれになった初めのクリスマスの出来事から2000年以上の年月が経ちました。今も私たちの周りでは暗闇が存在し、私たちの社会、心のうち、共同体などさまざまな形で現れていると言えるでしょう。しかし、そうした闇がどれほど深くても、御子キリストは今もなお生きておられ、私たちが心を開いて祈る時、私たちの闇を照らしてくださいます。このクリスマス、この御子キリストに闇を照らしていただく時として過ごしませんか。

クリスマスを迎える喜び

皆さんは今年のクリスマスをどのように迎えますか？
幼稚園から初等部、中等部、高等部、大学の皆さんに、
2023年のクリスマスを迎えるいまの想いや喜び、
クリスマスの思い出を綴っていただきました。

幼稚園教諭 迫田 敏幸

打ち捨てられることはない

人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていてくださる。

あらゆる場所で人と人が傷つけあっている現状があります。進むべき方向が分かっているのに、そうできずに苦しんでいる方が多くいらっしゃいます。主は例外なくこの世界の全ての人を救う為に独り子であるイエス様を私達に与えてくださいました。それは暗闇によって消えることのないまことの光であり喜びです。しかし今、その喜びを喜びとして感じられずに暗闇の中にいるような気持ちで苦しんでいる方が、あなたの隣にもいるかもしれません。私は今、幼稚園教諭として園児らと共に祈る生活を主によって与えられています。私達の祈りは主が必ず聞いていてくださり、相応しい時に相応しい形で用いてくださる。「祈ることしかできない」のではなく「祈ることができる」のです。世界中全ての方の心を私は知り得ることはできません。だからこそ主がその一つひとつの心を切り捨てることなく救ってくださることを願い祈り続け、キリストの御降誕を待ち望みたいと思います。



幼稚園の園児たちによる クリスマスの制作品

(22年度の作品より)



幼稚園教諭 赤坂 洋子

献金箱

毎年、第1アドヴェントの日
に手作りの献金箱を持ち帰
ります。家庭で毎日祈りつつ、
その箱に貯めた献金は、クリ
スマス礼拝でお捧げします。
年長児がお捧げしている献金
箱は、子どもたちが藍染めし
た布を箱に貼っています。



お家の方へのプレゼント

子どもたちは大好きなお家の方へプレゼントを作ってお渡します。



〈年中児 羊毛石鹸〉

ふわふわの羊毛フェルトを
石鹸で丁寧にこすって作りました。



〈年少児 クリスマスツリー〉

木の板に、釘でフェルト片を
打って飾りました。

初等部教諭 柚村 満

クリスマスの思い出

¡ Feliz Navidad ! (クリスマスおめでとうございます)

私は、1985年のクリスマスをスペインのバルセロナで迎えました。友人のスペイン人の家に滞在させていただき、親族が集まるクリスマスイブの食事に招かれました。スペイン料理をいただきながらスペイン語、カタルーニャ語、ドイツ語、英語、日本語などで会話が進み、とても明るくにぎやかで、楽しい時間が流れていきました。食事が終わり、バルセロナの小さなカトリック教会でミサを守りました。聖書のみ言葉を聴き、讃美歌を歌い、神様にクリスマスの喜びと感謝を共に祈りました。ミサを守った後、教会の地下室でクリスマスパーティがありました。優しいシスターに出会い、セビージャの踊りを教えてもらい一緒に踊りました。聖書に「私たちの国籍は天にある」というみ言葉がありますが、宗派や、国や

言語が違って、神様にあって兄弟姉妹であり、共にイエス様の誕生を祝える恵みに感謝した忘れられないクリスマスの思い出として今も心の中に残っています。 **Dios es amor.**



5年 内田 実那

サンタさんだけではないクリスマス



私は、サンタさんからプレゼントをもらうことがクリスマスの一番の楽しみだった。

しかし初等部に入ってクリスマスを違う角度から見て、楽しみが増えた。12月のアドヴェントからクリスマス礼拝、ページェント、そして家族でお祝いするクリスマス。年末までイベントがいっぱいだ。そういうことの意味を初等部で教えてもらい、体験させていただいたと思っている。

初めてのページェントのオーディションの話聞いた時は、あまりよくわからず、何だか恥ずかしいような気がしてオーディションを受けなかった。でもページェントで見たマリア様役の上級生の神々しさ、聖歌隊の歌声にすっかり憧れて、いつかあの舞台に立ちたいと思うようになった。(今はまだその勇気がないのだけれど……。) 点火祭で、ツリーに灯りが灯ると私の心もきらきらした気持ちになる。こんな12月を過ごせてイエス様と深いつながりを持つことができるクリスマス。街がクリスマスのオーナメントで溢れても、私はその意味をちょっと知っている、という特別な気持ちになるだろう。



3年 大倉 悠輔

羊飼いと博士



僕は幼稚園から中部まで、カトリック系とプロテスタント系の二つの教派の学校に通っていました。聖書にはイエス・キリストが生まれてくるまでに羊飼いたちと東方の博士たちが、それぞれメシアの星の導きに従ってエルサレムへと向かいます。当時の羊飼いというのは、羊を危険から守り放浪生活を行っていたのですが、語学の勉強など全くできず知識も乏しかったため、彼らは社会の最下層の人々として見下されていました。

東方の博士たちは、先ほどの羊飼いとは対極に位置するような存在でした。富と知識を兼ね備え、メシアの星が現れた際にはその意味について深く考える思慮深い人たちでした。

羊飼いたちはルカの福音書に、東方の博士たちはマタイによる福音書に書かれています。聖書は、当時の社会の対極的な立場を書き表すことで、イエス・キリストが貧しい者にも富んだ者にも、知識の乏しい者にも豊かな者にも等しく接したことを意味し

ているのではないかと思います。

これから迎えるクリスマスにあたり、世界中にいる全ての人々に平和と希望があふれることを祈りたいと思います。





3年 井上 莉緒

クリスマスの意味

クリスマスはイエスが生まれたことを祝う日。それを意識し始めたのは中部部に入ってからです。今まではプレゼントをもらったり、贈り合ったりする日という印象でした。しかしそのイメージが変わった聖書箇所があります。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された」（ヨハネによる福音書3：16）。これは神が罪深い人間たちを愛し、罪を赦し神の子とするためにイエス・キリストというプレゼントを与えてくださったのだという意味です。つまりクリスマスは神に対して、「私たちのためにイエスを与えてくれてありがとうございます」と伝え、喜び合う日ということです。

私はこの話を読んで、クリスマスのプレゼントの文化がなぜ生まれたのか、クリスマスの本当の意味を知ることができました。それと同時にイエスが世界の人々から慕われているということもわかりました。

今現在、厳しい環境下に置かれ辛く苦しい思いをしている方がいます。その方たちも神がイエスという神のひとり子を与えてくださったことを喜び、共に祝えることを願っています。



高等部教諭 中久木 眞治

あなたはひとりぼっち、ではない

私には山下達郎の名曲「クリスマス・イブ」を聴くたびに思い出す辛い思い出がある。少年の日、私の家族は高齢で体調も思わしくなかった母方の祖母と同居していた。もともと私は九段に住んでいたが、そのため通い慣れた母教会の九段教会を離れ、母と祖母と私で地元の教会に車で通っていた。なので教会学校の生徒さんとも交流がなく、教会に行っても大人の礼拝にばかり出ることになってしまっていた。

その一番寂しい時がクリスマスだった。同い年の子どもたちが、とても楽しそうに交わりをしている。しかし私は孤独。「クリスマス・イブ」だったのだ。

祖母逝去後、母教会へ戻ったが今度は私を知らない人が増え、私はすっかり気が塞いでしまい、大事なクリスマスでさえ教会に通うのをやめようかと思ったほどだった。

だが、私は教会へ通うことをやめなかった。心がなぜか癒され励まされ、「もう少し頑張ってみようかな」という気持ちにされたのだ。

私は気が付いた。私は独りぼっちではなかった。主イエス・キリストがそこにいてくださったのである。そして聖霊様のお導きが、常に私を教会に向けてくださっていたのだ。

今年も点火祭に一人向かうあなた。「私がいるではないか！」と、ほら、イエス様が語りかけてくださっている……

3年 石原 弘

クリスマスに思うこと



2021年のクリスマス、僕は交換留学中で米国にいました。ホストファザーは牧師で、イブの礼拝に日本語でいいのでお祈りをしてほしいと僕に言いました。聖壇にて祈りを捧げました。もちろん日本語なので僕が言ったことなど誰もわかるはずがないのですが、皆一生懸命耳を傾け、最後に「アーメン」と唱和してくれました。そして礼拝後は沢山の人から感謝の言葉をいただき、クリスマスは、人種や言語の壁を越えて祝え、幸せな気持ちになれる日だと実感しました。しかし、同時に本当にそうだろうかという疑問もよぎりました。1カ月ほど前に教会のボランティアでホームレスシェルターに行き、食事の提供をした時のことを思い出したのです。そこの方達は、

ドラッグ依存や、人種差別によって職を失い、その場凌ぎの生活を強いられています。その方々に、自分のようなクリスマスはやってきたのだろうか、と。それから2年、戦争が勃発するなど世界は様変わりしています。それでも全ての人々に神様が共に居て祝福を与えてくださるクリスマスが来るように、僕は願ってやみません。



地球社会共生学部教授 村上 広史

闇に輝く「まことの光」

以前、同じ教会にいらしたアメリカ人宣教師が、クリスマスになると口癖のように話しておられたことがある。「Xmas はだめですよ。これはキリストにX（バツ）をしてるから、キリストがいないことをお祝いする祭りの意味になるでしょ。クリスマスはイエス・キリストが中心だから Christmas と書きなさい。」

Xmas のXはギリシャ語のキリストの頭文字である。しかし、日本ではこのXが間違いや不要という意味でも用いられる。そこで、警鐘を鳴らしたかったのだろう。長年日本で伝道し、闇の力を身をもって感じておられた方の言葉として重く受け止めたのを覚えている。

一方、闇にこそ「まことの光」は輝く。ちょうど夜番の羊飼いや東方の博士が見た時のように。闇の力が大きな日本にあって、青山学院は、そこに集う人々の心に「まことの光」であるキリストを輝かせるために創設された。クリスマスを機に、学院を通して多くの方々がキリストに出会い、キリストにある喜びに満たされるようになることを祈りたい。

Merry Christmas!





理工学部情報テクノロジー学科3年 沈 禱玄

今年のクリスマスは…

今年のクリスマスは何をしますか？ 家で休む方・ひとりまたは家族で過ごす方・好きな人と共に時間を過ごす方・お仕事がある方などなど。クリスマス礼拝に行く方もいるでしょう。

2020年。私は、兵役中にクリスマスを迎えました。暗く寒く寂しいクリスマスでした。ルカによる福音書2章8・9節に「羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が現れ、主の栄光が周りを照らした」という箇所があります。当時、夜通し国を守っていた私に主の天使は現れませんでした。兵役という環境と現状に、喜んでクリスマスを迎えられませんでした。

その時、私が喜んでいたのは「イエス様が生まれた日」ではなく「世間の明るく華やかで楽しい休日」だったのかもしれないと気づかされました。皆さんはどうでしょうか。

今、改めてイエス様の誕生の意味に目を向けていきたいです。暗闇を照らし、人々の希望となり、低い場所から十字架の計画を持って生まれた方。

このことを忘れず、感謝して喜んでクリスマス（イエス様の誕生日）を祝っていきたいと願います。

World Vision Japan プロジェクトリーダー 西島 恵 (校友)

クリスマスの思い出～愛を生きる

私にとってクリスマスと言えば、貧困層支援のために携わったフィリピンとバングラデシュでのことを思い出します。

私は約6年間、フィリピンにて、小さな NGO のボランティアとして貧困層支援に携わりました。フィリピンでのクリスマスは賑やかで喜び溢れる楽しい時でした。クリスマスの1ヶ月前から様々な準備に追われます。クリスマスの9日前から明け方のミサ（朝3時半）が始まり、町中に教会の鐘の音が響きます。人々は暗い夜道、教会へと向かい、心を準備します。そうして盛大なクリスマスの祝いがやってきます。教会では夜中24時に喜びの賛歌をもって賛美を捧げます。心地よい疲れとともに、イエス様の誕生という喜びを町全体で祝う時でした。

フィリピン滞在中のある年、クリスマスの1ヶ月ほど前、フィリピンの現地スタッフと言い合いをしました。私は自分の方が正しいという思いから苦しみに苛まれました。しかし、クリスマスの日、十字架にかけられるために生まれてきてくださったイエス様の愛、神様の愛を感じ、自分の考えを脇に置き、愛を生きる必要で

あると感じました。フィリピンの方々は日本から来た私を兄弟姉妹として受け入れ、沢山の愛を与えてくださっていたにも関わらず、私の心は頑なでした。私は自分の過ちを受け入れ、言い合いをした人に謝り、仲直りをしました。その後、その人はあることから問題



写真2点：バングラデシュの現地スタッフと共に

を抱え、誰からも相手にされなくなりました。そんな時、私はその人の傍にいて、支えることができました。愛を生きることの喜びを学ばされた出来事となりました。

また、バングラデシュに駐在していたある年、クリスマス

を前に私には不安がありました。その年、クリスマスの直前にイスラム教の重要なお祝い（犠牲祭）があり、私は誰がいつ休むか、活動が止まらないかと思案していました。しかし、バングラデシュのスタッフは、私の不安をよそに休みのスケジュールを立ててくれていました。バングラデシュの大半はイスラム教徒ですが、キリスト教徒、仏教徒、ヒンドゥー教徒がいます。イスラム教の祝日はイスラム教徒が休みを取り、イスラム教徒以外の人が働き、クリスマスはキリスト教徒が休みを取り、キリスト教徒以外の人が働き、1月には仏教徒が休むなどと順番に休むように組み立てられていました。とても自然にそれぞれの信仰を尊重していることが分かる出来事でした。

今でもバングラデシュの支援活動に従事していますが、毎年、クリスマスの日には、バングラデシュから、キリスト教徒以外の人からも「クリスマスおめでとう！」「神様の祝福がありますように」というメッセージが届きます。互いの信仰を大切にしようという彼らの具体的な愛の行いに、クリスマスこそ愛と喜びを分かち合う時であることを思い出されます。世界の平和はこんな小さな愛の行いから始まるのではないかと思います。神様の愛を生きる者となれるよう祈り努力していきたいと思います。神様に感謝！



＊西島恵さんは2023年度中等部グローバルウィークの礼拝において奨励をしてくださいました。

クリスマスに おすすめ の作品!

みなさんはアドヴェントをどのようにお過ごしですか。

今回は幼稚園から大学の方々に、

おすすめの絵本・書籍・音楽を紹介していただきました。

ぜひお手に取ってみてください。きっと心が豊かになることでしょう。

絵本

幼稚園教諭
河瀬 ゆり子



『たどりつくまで
ロバと三人の旅』
アン・ブース(文)
サム・アッシャー(絵)
真下弥生(訳)
新教出版社

「たどりつくまで」ロバと三人の旅、この絵本は「男の人」「女の人」そして「赤ちゃん」の旅の道行きが、ロバの目線で語られています。男の人はヨセフ、女の人にはマリアですが、その名前は出てきません。でもかえってそのことが、この世のただなかで起こったというリアリティーを感じさせてくれます。そして暗い夜に、不安や恐れ、悲しみの中にありつつも、出会った方々の思いやりや優しさに触れながら三人とロバはエジプトへと向かうのです。赤ちゃんの見せたはじめての笑顔に希望の種を見出して。最後にはほっとできる場所にたどりつくことができました。どうか私たち1人ひとりの人生の旅路が祝されますように。悲しみのあるところに慰めがありますように。2023年のクリスマス、救い主イエスさまのお生まれをみんなで祝いましょう。

「1ドル87セント。これで全部だ。(中略)デラは3度数えた。
1ドルと87セント。明日はクリスマスなのに。」

オー・ヘンリーの書いた「賢者の贈り物」という有名な短編の書き出しの一節です。

この話に出てくるデラや夫のジムには華やかな贈り物を買うお金がありません。そこで、相手にプレゼントを買うために、自分の大事なものを売ってしまうのですが…

クリスマスにプレゼントを贈る現在の習慣は、東方の三賢者が主イエスのご誕生に際して贈り物を用意したことに因んでいるとも言われています。私達を愛するゆえに神様がひとり子をこの世に送って下さったクリスマス。そんなクリスマスにプレゼントを贈る時、どんなことを大事にするべきなのか、考えさせられるお話です。

書籍

初等部教諭
田中 翔



『賢者の贈り物』
オー・ヘンリー(著)
越前敏弥(訳)
角川文庫



中等部教諭
ライト 兼



"Jingle Bells"

"Jingle Bells" is one of the most well-known and enduring Christmas songs, written by James Lord Pierpont. It was originally published under the title "One Horse Open Sleigh" in 1857. Interestingly, the song was not originally intended to be a Christmas song but became associated with the holiday due to its lyrics and the jingling sleigh bells mentioned in the song. The lyrics of "Jingle Bells" describe the joy of riding in a sleigh through the snow, the thrill of dashing through the snow, and the sound of the jingling bells on the horse's harness. The song is typically upbeat and often encourages people to join in and sing along. "Jingle Bells" is one of the most frequently performed and recorded Christmas songs in the world.

"Jingle Bells" is a classic and beloved Christmas song that has been a part of holiday celebrations for many years. It's known for its catchy melody and cheerful lyrics, making it a favorite for people of all ages during the holiday season. Many people enjoy singing along to "Jingle Bells" and using it as part of their holiday traditions. It's a fun and iconic Christmas song that brings a sense of nostalgia and happiness during the holiday season.

時代は明治末。鉄道職員永野信夫はキリスト者として愛と信仰に生きる人物だった。愛するふじ子との結納の当日、彼が乗る札幌行きの列車が旭川の塩狩峠の頂上にさしかかった時に客車が離れ、坂道を暴走し始めた。絶体絶命の状況で彼は線路に身を投げて列車を止め、自らの命を犠牲にして大勢の乗客の命を救った。乗客たちは血にまみれた彼の姿にとりすがって泣いた。混乱する人間社会は坂道を暴走する列車のようにも見える。根底にあるのは闇のように深い人間の罪。その罪の世界に根本解決をもたらすために、神は一人子をお与えくださった。暗闇の世界に「すべての人を照らすまことの光」をお与えくださった。神の一人子はこの世でいかに生き、いかに死なれたか、神の一人子が私たちの救いのために世に来てくださったことがどれほど大きなことか考えたい。



高等部教諭
小林 和夫



『塩狩峠』
三浦綾子 (著)
新潮文庫



理工学部准教授
井口 幹夫



Steve Sacks
“Christmas Presence”

ジャズを聴くことは健康にいい。そんなテーマで理工学部の学生は英語のプレゼンテーションを時折してくれます。その通りだと思います。

私も日々インストゥルメンタルのジャズやボサノヴァをBGMにして仕事をしています。ご紹介したいのはニューヨーク出身で日本在住のサクソ奏者スティーブ・サクソ氏によるコンテンポラリー・ジャズのアルバム“Christmas Presence”です。イエス・キリストの presence（存在）= present（贈り物）というテーマで、1曲目は小気味よいテンポのジャズにアレンジされた定番の「Silent Night きよしこの夜」から始まります。

特におすすめしたいのは2曲目の「Go, Tell It on the Mountain! 山上より告げよ」です。日本ではあまり馴染みがないかもしれませんが、海外ではよく知られた曲です。

旅行でドイツのノイシュヴァンシュタイン城を訪れた晩秋に、青年達が街角で英語で歌っていたのがこの曲でした。行き先があったものの、思わず立ち止まって曲の終わりまで聴き、「その曲知っているよ」と英語で話しかけてから会話が弾むきっかけを作ってくれた曲です。アップテンポで気分が意気揚々となります。

課題、テスト、仕事で何かと忙しい年末、ジャズとクリスマス・ソングのどちらとも思うならば、BGMとしていかがでしょうか？

町ではクリスマスの装飾も増え、クリスマスが近づいたことを感じます。この時期だからこそキリスト教について、聖書について知る機会にしてもらえたらいいなと思いこの本を紹介させていただきます。

この本は聖書に出てくる女性を中心に解説された本です。全部で約110ページでとても読みやすいと思います。クリスマスに関連ない解説も多くありますがマリアの解説ページにはクリスマスについての簡潔な解説もあり、クリスマスの背景について知ることができます。クリスマスの時期、礼拝などでイエス様の誕生のお話を聞く機会が多いと思いますが、この本で背景を知っているとよりクリスマスのお話が分かりやすくなるのではないかなと思います。

聖書は難しいと思っている方にも短いからこそ手に取って読んでみてもらえたら嬉しいです。

書籍

社会情報学部
社会情報学科4年
吉田 愛実



『イエス・キリストの
系図を彩る女性たち』
平山澄江
キリスト新聞社

編集後記

ロシアのウクライナ侵攻の戦争が続くなか、今年は、この原稿を書いている11月の時点で、聖書の発祥の地であるイスラエル・パレスティナでの惨劇のニュースが毎日溢れ、人々の、子どもたちの血が流されていることを私たちは知らされています。武力を力のすべてとしてより頼む支配者たちの途方もない傲慢と残虐さ——血と涙を流すのは、聖書の昔もいまも、ごく普通の人々、弱者たちです。

今号の寄稿には、異なる文化や国の人々との交わりの経験や世界の人々への気遣いを記したものが多くありました。「クリスマス」は神が世を愛してくださっていることのあるしです。救い主は世に仕えるためか弱い乳飲み子の姿で来られ、人々を結びつけられました。だから、私たちは自分と異なる世界の人々とながることができるのです。

——クライナ、イスラエル、パレスティナ、そしてすべての紛争地で絶望の淵にいる人々に、そして私たち一人ひとりに、今日、救い主の「まことの光」(ヨハネ1:9)が照り輝きますように。「光は闇の中で輝いている。闇は光に勝たなかった」(ヨハネ1:5)。

大学宗教主任 島田 由紀

Wesley Hall News 第143号

2023年12月5日発行

発行 青山学院宗教センター
学院宗教部長 伊藤 悟

編集 青山学院 Wesley Hall News 編集委員会
〒150-8366
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL 03-3409-6537 FAX 03-3409-8865

URL <http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>

MAIL agcac@aoyamagakuin.jp みなさんの感想をお聞かせください

青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

(マタイによる福音書 第5章 13-16節より)